

カリキュラムマップ：経済学専攻 博士課程前期課程

			ディプロマ・ポリシー		
			1	2	3
			<p>(知識)経済学全般に関して問題を発見し、解決するために必要な深い知識・技能を有するにとどまらず、関連する分野においても幅広い知識を修得している。</p> <p>(技能)経済に関して分析すべき課題について、単独で、あるいは研究グループの一員として作業計画を立て、適切な手法を用いて分析し、その結果を提示する技能を修得している。</p>	<p>(判断力)理論経済学または応用経済学の分野において自ら抽出した新規性のある課題を、多角的かつ批判的に分析することができる。</p> <p>(思考力)分析を通じて得られた知見は、広い視野に立脚した独創性のあるものであり、論理的な思考・判断に基づき結論が導かれている。</p> <p>(表現力)理論的貢献や政策的含意を結論に至るまでの確に表現し、学術論文・口頭発表・講演などのかたちで明確に説明する発信力をもつ。</p>	<p>(建学の精神)経済学と国内外の経済情勢について関心と問題意識を持ち続けるにあたっては、国際社会や地域社会における多様性を尊重し、受容性と親和性をもって東西文化への理解や多文化共生を実践する。</p> <p>(教育の理念)多角的な視点から課題の発見と問題の解決に取り組む。これを通じて、自らの研鑽の成果を生かす研究者・研究指導者・専門的職業人として指導的・先導的な役割を果たし、積極的に社会に貢献することができる。</p> <p>(態度)研究者としての倫理観、品位、責任を保持できる。</p>

NO	科目	開講期間	授業形態	DP1(1)	DP2(1)	DP3(1)
1	文献調査研究	前期	講義	○	○	○
2	経済学研究指導Ⅰ（理論経済学）	通年	演習	○	○	○
3	経済学研究指導Ⅰ（経済史）	通年	演習	○	○	○
4	経済学研究指導Ⅰ（経済政策）	通年	演習	○	○	○
5	経済学研究指導Ⅰ（国際経済）	通年	演習	○	○	○
8	経済学研究指導Ⅰ（金融）	通年	演習	○	○	○
9	経済学研究指導Ⅰ（社会保障）	通年	演習	○	○	○
10	経済学研究指導Ⅰ（資源経済学）	通年	演習	○	○	○
11	経済学研究指導Ⅱ（理論経済学）	通年	演習	○	○	○
12	経済学研究指導Ⅱ（経済史）	通年	演習	○	○	○
13	経済学研究指導Ⅱ（経済政策）	通年	演習	○	○	○
14	経済学研究指導Ⅱ（国際経済）	通年	演習	○	○	○
17	経済学研究指導Ⅱ（金融）	通年	演習	○	○	○
18	経済学研究指導Ⅱ（社会保障）	通年	演習	○	○	○
19	経済学研究指導Ⅱ（資源経済学）	通年	演習	○	○	○
20	理論経済学ABC（マクロ経済学）	通年	講義	○	○	○

カリキュラムマップ：経済学専攻 博士課程前期課程

			ディプロマ・ポリシー		
			1	2	3
			<p>(知識)経済学全般に関して問題を発見し、解決するために必要な深い知識・技能を有するにとどまらず、関連する分野においても幅広い知識を修得している。</p> <p>(技能)経済に関して分析すべき課題について、単独で、あるいは研究グループの一員として作業計画を立て、適切な手法を用いて分析し、その結果を提示する技能を修得している。</p>	<p>(判断力)理論経済学または応用経済学の分野において自ら抽出した新規性のある課題を、多角的かつ批判的に分析することができる。</p> <p>(思考力)分析を通じて得られた知見は、広い視野に立脚した独創性のあるものであり、論理的な思考・判断に基づき結論が導かれている。</p> <p>(表現力)理論的貢献や政策的含意を結論に至るまでの確に表現し、学術論文・口頭発表・講演などのかたちで明確に説明する発信力をもつ。</p>	<p>(建学の精神)経済学と国内外の経済情勢について関心と問題意識を持ち続けるにあたっては、国際社会や地域社会における多様性を尊重し、受容性と親和性をもって東西文化への理解や多文化共生を実践する。</p> <p>(教育の理念)多角的な視点から課題の発見と問題の解決に取り組む。これを通じて、自らの研鑽の成果を生かす研究者・研究指導者・専門的職業人として指導的・先導的な役割を果たし、積極的に社会に貢献することができる。</p> <p>(態度)研究者としての倫理観、品位、責任を保持できる。</p>

NO	科目	開講期間	授業形態	DP1(1)	DP2(1)	DP3(1)
21	理論経済学ABC (ミクロ経済学)	通年	講義	○	○	
22	理論経済学ABC (計量経済学)	通年	講義	○	○	○
23	理論経済学ABC (上級ミクロ経済学)	通年	講義	○	○	
24	理論経済学ABC (上級マクロ経済学)	通年	講義	○	○	
25	理論経済学ABC (上級計量経済学)	通年	講義	○	○	○
26	経済史AB (日本経済史)	通年	講義	○	○	○
27	経済史AB (西洋経済史)	通年	講義	○	○	○
28	応用経済学ABC (公共経済学)	通年	講義	○	○	○
29	応用経済学ABC (交通経済)	通年	講義	○	○	○
30	応用経済学ABC (国際経済)	通年	講義	○	○	
31	応用経済学ABC (国際関係論)	通年	講義	○		○
32	応用経済学ABC (日本経済論)	通年	講義	○	○	○
33	応用経済学ABC (アメリカ経済論)	通年	講義	○	○	○
34	応用経済学ABC (金融)	通年	講義	○	○	○
35	応用経済学ABC (国際金融)	通年	講義	○	○	○
36	応用経済学ABC (ゲーム理論)	通年	講義	○		○

カリキュラムマップ：経済学専攻 博士課程前期課程

			ディプロマ・ポリシー		
			1	2	3
			<p>(知識)経済学全般に関して問題を発見し、解決するために必要な深い知識・技能を有するにとどまらず、関連する分野においても幅広い知識を修得している。</p> <p>(技能)経済に関して分析すべき課題について、単独で、あるいは研究グループの一員として作業計画を立て、適切な手法を用いて分析し、その結果を提示する技能を修得している。</p>	<p>(判断力)理論経済学または応用経済学の分野において自ら抽出した新規性のある課題を、多角的かつ批判的に分析することができる。</p> <p>(思考力)分析を通じて得られた知見は、広い視野に立脚した独創性のあるものであり、論理的な思考・判断に基づき結論が導かれている。</p> <p>(表現力)理論的貢献や政策的含意を結論に至るまでの確に表現し、学術論文・口頭発表・講演などのかたちで明確に説明する発信力をもつ。</p>	<p>(建学の精神)経済学と国内外の経済情勢について関心と問題意識を持ち続けるにあたっては、国際社会や地域社会における多様性を尊重し、受容性と親和性をもって東西文化への理解や多文化共生を実践する。</p> <p>(教育の理念)多角的な視点から課題の発見と問題の解決に取り組む。これを通じて、自らの研鑽の成果を生かす研究者・研究指導者・専門的職業人として指導的・先導的な役割を果たし、積極的に社会に貢献することができる。</p> <p>(態度)研究者としての倫理観、品位、責任を保持できる。</p>

NO	科目	開講期間	授業形態	DP1(1)	DP2(1)	DP3(1)
37	応用経済学ABC (財政)	通年	講義	○	○	○
38	応用経済学ABC (経済数学)	通年	講義	○		
39	応用経済学ABC (社会保障)	通年	講義	○	○	○
40	経済学特殊講義AB (政治学総合研究)	通年	講義	○	○	○
41	経済学研究指導Ⅰ (財政)	通年	演習	○	○	○
42	経済学研究指導Ⅱ (財政)	通年	演習	○	○	○
43	英書講読A	前期	講義			○
44	英書講読B	後期	講義			○
45	経済学研究指導Ⅰ (消費者政策・法制)	通年	演習	○	○	
46	経済学研究指導Ⅱ (消費者政策・法制)	通年	演習	○	○	
47	通説論研究指導Ⅰ	通年	演習		○	○
48	通説論研究指導Ⅱ	通年	演習		○	○
49	理論経済学A B C (経済学総合研究)	通年	講義	○	○	○
50	応用経済学ABC (中国経済論)	通年	講義	○	○	○
51	通説論	通年	講義		○	○
52	通説実習A	通年	実習		○	○

カリキュラムマップ：経済学専攻 博士課程前期課程

			ディプロマ・ポリシー		
			1	2	3
			(知識)経済学全般に関して問題を発見し、解決するために必要な深い知識・技能を有するにとどまらず、関連する分野においても幅広い知識を修得している。 (技能)経済に関して分析すべき課題について、単独で、あるいは研究グループの一員として作業計画を立て、適切な手法を用いて分析し、その結果を提示する技能を修得している。	(判断力)理論経済学または応用経済学の分野において自ら抽出した新規性のある課題を、多角的かつ批判的に分析することができる。 (思考力)分析を通じて得られた知見は、広い視野に立脚した独創性のあるものであり、論理的な思考・判断に基づき結論が導かれている。 (表現力)理論的貢献や政策的含意を結論に至るまでの確に表現し、学術論文・口頭発表・講演などのかたちで明確に説明する発信力をもつ。	(建学の精神)経済学と国内外の経済情勢について関心と問題意識を持ち続けるにあたっては、国際社会や地域社会における多様性を尊重し、受容性と親和性をもって東西文化への理解や多文化共生を実践する。 (教育の理念)多角的な視点から課題の発見と問題の解決に取り組む。これを通じて、自らの研鑽の成果を生かす研究者・研究指導者・専門的職業人として指導的・先導的な役割を果たし、積極的に社会に貢献することができる。 (態度)研究者としての倫理観、品位、責任を保持できる。

NO	科目	開講期間	授業形態	DP1(1)	DP2(1)	DP3(1)
53	通訳実習 B	通年	実習		○	○
54	通訳実習 C	通年	実習		○	○
55	通訳実習 D	通年	実習		○	○
56	通訳実習 E	通年	実習		○	○
57	通訳実習 F	通年	実習		○	○
58	経済学特殊講義AB (租税法)	通年	講義		○	○
59	経済学特殊講義AB (消費者政策・法制)	通年	講義		○	○
60	外国文献研究 A B(英語A)	前期	講義		○	○
61	外国文献研究 A B(英語B)	後期	講義		○	○
62	外国文献研究 A B(日本語A)	前期	講義	○	○	○
63	外国文献研究 A B(日本語B)	後期	講義	○	○	○